

令和6年度 第1回 大衡村総合教育会議 議事録

日時：令和6年7月3日（水）

午前10時30分から午前11時50分

場所：大衡村役場2階 会議室

○出席者：大衡村長 小川ひろみ、教育長 齋藤浩

教育長職務代行者 渡邊 勇、教育委員 文屋栄悦、教育委員 齋藤さと子

学校教育課長 森田祐美子、学校教育課参事 福田美穂、課長補佐 千葉岳史、

社会教育課長 堀籠淳、課長補佐 浅野めぐみ

総務課長 早坂紀美江、主任 伊藤那由多（書記）

○欠席者：教育委員 佐竹由加

1. 開会（進行：総務課長 早坂紀美江）

開会時刻：午前10時30分

2. 挨拶（大衡村長 小川ひろみ）

[省略]

3. 協議…大衡村総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により村長が議長となり進行する。

（1）長期欠席・いじめ等の状況について

（2）部活動地域移行について

<小川村長>

それでは議事の協議に入りたいと思います。(1) 令和5年度長期欠席・いじめ等の状況について、(2) 部活動地域移行について、(3) スクールバス・バス車両更新計画について、(4) 児童・生徒数推計について、この4つの項目を一括して事務局より説明していただいた後に質疑応答に入りたいと思いますのでご協力をお願いいたします。では、事務局、よろしく申し上げます。

(資料1～4に基づいて、学校教育課・社会教育課より説明)

<小川村長>

只今事務局より説明がありました。皆様から何か質問ございましたら、お聞きいただきますようお願いいたします。

令和5年度の長期欠席やいじめの状況の話もございました。それについてお気づきの点や事務局に聞きたいことがあれば、お聞きくださるようお願いいたします。

いじめの件数と不登校、長期欠席、16と24、毎年少しずつ上昇しているのが続いている状態。私の挨拶でもお話ししましたがけれども、今通信制の高校とか、そういう場所で個性を伸ばすような、学校もあります。長期欠席、こころのケアハウスも大衡でもありませんけれども、その中で結局この間はそこでもその後については、自分らしさを、自分の個性を、自分の生活リズムに合わせた学校選びっていうのもこれからは多様化していくのではないかなと思っているところでもあります。

後、器物損壊ですか。これは私もびっくりしたのですが、授業抜け出しとか授業妨害もあるのだと説明がありましたね。環境は変わっていくのだなと思いました。

皆様からご意見をいただきたいと思います。

<渡邊教育長代行>

長期欠席者が伸びているっていう形ですね。行政側も施策を打っていると思うんですけど、家庭に問題があるのではないかと思う。資料に書いてある欠席とか経済的理由とかその他の具体的に説明してもらえるか。

<小川村長>

事務局で把握している中で、どのような事例があるかというのを話せる範囲でお願いしたい。傾向でもいい。

<渡邊教育長代行>

学校楽しい子は来るのですよ。大体8割くらいは学校楽しくないと言う。なぜそんなにいないのか。「学校楽しいだろ」と聞くと「嫌だ」と言われる。

<小川村長>

我慢して行っているのですね。

<渡邊教育長代行>

学校に問題があるのか、家庭に問題があるのか。詳しく聞くわけにはいかないだろうが。学校は我々が小さい頃は楽しかったと思う。結構休んでいる子が多く感じる。何で来ないのか。

<小川村長>

どういう気持ちで来ないのか、ということですね。事務局の方でご回答お願いします。

<森田学校教育課長>

理由としてはやはり家庭環境が一番、あとは本人に何かしらの病気、診断名がついているという児童生徒が多いように感じております。

何で来られないのかといった理由については、個人個人に対してスクールカウンセラーだったりスクールソーシャルワーカー、そういった方たちが入って色々聞き取り調査をしていますので、その中でそういった情報も委員会の方には入っております。

<渡邊教育長代行>

怒る家庭もある。それが困るのだと、そういう家庭もあると思うのですよ。だから行く先生方がかわいそうだと思っているのです。

<小川村長>

では、その点については福田参事から。

<福田学校教育課参事>

不登校の理由というのはお子さん方によって違ってきますし、その一人の生徒についても複合的な理由でも、理由が色々あって代行からご質問あった家庭訪問のという部分で、家庭によってはなかなか学校が電話連絡を毎日しても受け取っていただけない、あとは家庭訪問して直接お子さんに対面してお話ししたいと家庭訪問してもなかなか上げていただけないといった場合ですね。ただ、そういう保護者については、やはり保護者自身が困っている、保護者自身に支援が必要というご家庭もあるので、まずその子供を登校させるために保護者に支援をするということが必要になってくる家庭の事もあり、健康福祉課であるとか、あとは他の福祉事務所であるとか、そういうところともさらに連携を取らないといけないところもあります。で、保護者が健康で安心してみられると、子供が登校につながるパターンもあります。あとは学習がついていけなくて、分からなくて教室にいられないというお子さんもいますし、それについては学校に別室を用意して個別対応したり、あとは人間関係に大変敏感になってきたことで、ちょっとした、子供たちにとってはちょっとしたことではないと思うんですけども、友達とのやりとりの中で関係性がうまく修復できずに、そこが気になって登校が難しくなる、といったところもある。

そういうところがなんで、っていうところをおっしゃるように大事なので、そこはやっぱり学校と家庭と、関係機関、福祉が入る場合もありますし、もちろんそこには委員会もかかわっていききたいと思うんですが、そこを大事にしながら、お子さんたちがこの子供の将来自立する力に繋がっていくかというところを確認していかなければいけないなと思っております。

<渡邊教育長代行>

また、これとはちょっと違うが、学校に登校させるために教員とか、調査に行くけれども、先生方が精神病になる可能性もある。それで学校の先生が大分病んで休んでいることも多いと思う、そういう負担もあるのかなと思ってね。本当に心配で、それであればやはり家庭訪問するときも3人で行くとか、いくらかでも負担軽減になるのかなと思う。心の病気にならないように、頑張っってなんとかしないといけないのかなと感じる。

<小川村長>

現場もなかなか大変ということで、やっぱり先生方の時間的な拘束がたくさんある。今色々働き方改革とか。そういうのが部活の移行にも関わっているとは思う。

<文屋委員>

今の意見と福田参事の話进行分析すると、前のNHKの72時間ドキュメンタリーっていうシリーズがあったのですが、不登校の子供と向き合う先生の72時間を追ったドキュメ

ンタリー番組があった。SNSにのめり込んで学校に行けなくなった、という。もうメンタル面でもそのSNSにどっぷり浸かっちゃったと。

これはもう日本全体、全世界でもこういった問題が取り上げられていますよね。アルコール中毒と同等の脳への影響、SNS依存症、スマホ依存症っていうのは深刻な問題を引き起こすという警鐘を鳴らされていますので。このスマホのSNS依存というのも大きな社会的な問題になっていくのかなと、私も見てびっくりしました。こんなにも依存というものは子供を精神的に病んでいく状況に引きずり込むツールにもなるんですよね。だから、これは教育委員会独自で云々よりも、村の行政としてこれからの警鐘を鳴らす施策をしていく必要がある。子供だけじゃなくて親も含めて。一緒の危険を孕んでいますよね。SNSは便利であるが故にいろんな犯罪にも引き込まれている。そういうメンタル面でも引き込まれる、怖い側面があるっていうことをやっぱり村の色々な会議等で親御さんたち、あとは子供を育てる環境にある人たち、関係者、そういう知識を持つべきかなということを感じました。

<小川村長>

そう思います。今は親が子供を大人しくさせるために youtube を見せる世の中。だから小さい頃からスマホに対して違和感なく育つわけですね。もう1歳ちょっと過ぎたら大体ごはんを食べる時も動画を見せていると子供が食べるようになる、等ですね。

あと、電車乗るのに騒がなくなるように動画を見せるとか。そういう環境で食事するようになっているので。大衡でスマホを持っているか小学校・中学校で調査したことあるんですかね。どんどん年齢も下がっているのじゃないか。昔のことで言えば高校の入学祝いで買ってあげるから、というか我慢していた世の中だったのですが、その入学祝いはもう時代遅れの話になっておまして。親が迎えに来るのでそれで連絡を取っていると。親御さんも忙しい中でそんな形にもなっている。

<渡邊教育長代行>

中学生が遊んでいるのを見ていると持っているのを見る。

<小川村長>

散歩していると見ます。だから今文屋委員が言ったように、スマホっていうのはどれだけ恐ろしいもので、どういうことがあるかっていうのを教育講演会みたいな形で、親も子供と一緒に勉強するような、SNSのトラブルもありましたので、そういうことも村側としてもやっていくことが必要なのかなと、今日対話してそういうような勉強会をするのも一つの手かなと思っております。

<齋藤委員>

今月土曜日に県のわたげの会というところで話を聞いて、引きこもりのサポートを28年間くらいやってらっしゃるっていう、ことだったので28年前とはその利用者引き籠っているお子さんとか、変ってきていますかと聞いたときにやっぱりこう携帯の話をしていて、30年前引き籠っていても家の中で過ごすのがすごく大変だった、それが今、携帯があるから一日中過ごして何も不自由ないからこれが厄介なのだという話をされていて、例

えば小学校中学校に、携帯に気を付けましようと言っても具体性がなく、親がずっとスマホを見ているのを見て育っているの、何も説得力がない。具体的に例えば教育委員会のメンバーで夜は寝室に持っていかないとかそういうのも一か月やったらこういう結果ができましたとできれば。全日本の男子バレーの石川祐希選手というキャプテンがいるのですけれども、2・3年前から寝室に絶対持っていかない、ということをやっている。それは睡眠時間を確保して、自分のポテンシャルを上げるとかそういうことを意識して、具体的な小さな枠からこう広げていくとか、ただただやりましよう、ではなく自分たちでやっていくという具体例があるといいのかなと文屋さんの話を聞いて思いました。

<渡邊教育長代行>

スマホを持つな、と言っても学校に持っていく子はいる。まだ持っていない子はいいが。持っていかないし時間を守ってやっている子もいるし。ダメだっというのじゃなくて、これ、こういうことが怖いっということを共有したい。

<小川村長>

習慣ですよ。テレビも帰ってきたらつける、電気つけるのと同じような話ですよ。

<渡邊教育長代行>

恐ろしいっことを機会あるごとに伝えたい。「ダメだ」ではなく、こういう恐ろしいところがある、ということ。

<小川村長>

少しずつ小さなことからやっていきたい。

先ほど引きこもりの話も出ていましたけど、50歳の方が、80歳の親に色々してもらっているけれども、今は60、90だそうです。その時代から10年が経っているってことですね。それぞれのところがですね、いつまでも50歳でいるわけじゃないので。子供に画面を見るなど言うのは難しい、家族の中のルールとして勉強等言っていくことが大事だと思いました。教育委員会でもですね、話をしながら進めてまいりたいと思います。

では次の話題よろしいでしょうか。部活動の地域移行についてですね。何か皆さまご質問がありましたらお願いいたします。今回から1年生から強制的に入らなくてよいということになりましたので。何かに所属していると、もしバスケ部に入っていたらスイミングではできない等のルールができてきて、陸上部でもそうでした。

<渡邊教育長代行>

2年と3年の無所属が7名か8名とありますよね。この方は部活に所属していたのを今回から加入しなくてよくなったから抜けたということですよ。

<小川村長>

結局さっき言ったように、陸上やりたいのに何か入っているとできない。スイミングに行っている子が部活動に入っていると大会に出られない、という状況だった方もいると思います。

<渡邊教育長代行>

休日をやる分を頼むって、私は難しいと思うんですよ。誰に頼むかとなったとき定年延

長の会社も出てくるから難しいのかなと思うんです。

<小川村長>

今までだったら学校生活を見ていて、その後顔を見たうえで部活動を見てくれるけれども今から部活と学校生活を分離してしまうと子供の本当の気持ちが見えてこなかったりすることもあり得るかもしれないので、受け取る方は慎重にならなければならない。研修だとかメンタルケアをきちんと受けたうえで引き取っていただく形しかない。近隣の自治体の動向を見据えながら、という説明もありましたので、まだ様子を見ながらというか、学校も大変ですし、指導者の方々は本当によくやったださっているな、というのは感じていいますので。今ボランティアですので、そここのところをてこ入れしていかないといけないと思っていますところなのですね。色々この件については、検討しながらまた教員の方々とも話し合い、学校側も含めながらやってまいりたいと思いますのでよろしく願います。

ではスクールバスの車両更新について、どうでしょうか。

<渡邊教育長代行>

バスに必ずしも多くが乗っているわけではない。そのためいわゆるマイクロバスの小さなバスにした方がいいかと思う。そうすると2千万が半分くらいになる。赤バスがリミットいっぱいになっているんですよね。前はね許可もらわないとバスに乗れなかったんですよ。校長先生と1回相談して、この地区が健康増進のために歩きましょう、という話もありました。

<小川村長>

今交通事情とか不審者、イノシシとか様々な部分でそこを強制するのは難しいというのが現状だと思います。渡邊教育長代行が言ったように、大きなバスだけじゃなく小さなバスにするというのも1つの手、クリームバスはどうなるか分からないけれども、黄色バスについては子供達どんどん少なくなると思うんです。そこを見据えながら、買うのも2年先くらいになりますので、子供達の人数のかみ合いを見ながらやっていかなきゃいけないと思います。

次に進めさせていただきます。児童生徒数の推移について、皆さん何か質問ございませんでしょうか。今、私立に入る中学生も増えていまして、去年は3人、今まで1人とか2人だったのが徐々に増えてきている現状です。小学校もグローバル化ということで、インターナショナルスクールに入っている子供、親の感覚も上のレベルを狙うというような。それがいい悪いではないですけど、子供たちが生まれる人数ですね、4年前が37人、3年前が27人、2年前が25人とか、今年度が20人行くかというようになっていまして、人数は本当に減ってきますので、これからの動向を見据えながら、今回中学校に給食センターも持ってききましたので、5年先、10年先を考えてマスタープランをどのような形にしていくか決めていかなきゃならないと思います。やはり1クラスになることで、今までは2クラス、多いときは3クラスという時もありましたのでそれが減ってきておりますので、いろいろ推移を見ながら、建物には維持管理費がかかりますので団地作って大衡に住ん

で、となればまた箱物がなきゃいけない。そうすると、今度あと何年か後には箱がガラッとなくなるわけです。子供たちが大きくなると。その場合約 10 年しか持たないって形になりますので、そこのところも考えないといけない。

<文屋委員>

台湾の企業が入ってくる年がどれくらいになるかわかりませんが、全員大衡に入ってくるわけじゃないけど、子供たちの受け入れ体制、学校の受け入れ体制とか、地域社会として受け入れ体制どうすべきとか、話題として出てきているんでしょうか。

<小川村長>

受け入れは可能ですね。今回知事が半導体工場を持ってきて、自分が知事になる時に 10 兆円規模の企業を持ってくるという公約が叶い大変よろこんでございました。大衡村に工場は来ますけど、とにかく宮城県全体で潤い、活性化してほしい。大衡だけいいねって言われたんですけど、そうじゃなくみんながそれぞれ自治体の良さを発揮していただいて魅力を発信しながら対応してほしいというお話はございました。

<文屋委員>

今でも学校の現場では子供たちの中国だけに限らず世界の方の、この辺のからもそうなりますので。もちろんね、自動翻訳機とか AI とか発展はしていると思うんですけど、この辺の多言語に対応する教員の在り方とか。その辺もセットとして置いていかねばならないっていうのですね。この辺の自主財源的なもの、県費の助成があるのか、ぜひ強く要請していただいて、村単独だけでやってくださいとは言われないうように頑張っていていただきたいなと思います。

<小川村長>

ただ、県は本当に予算がないと言われまして、大衡も松原とか結構な外国人の方がいらっしやいます。あと衡上ですか、その辺りもいますので、教育現場もそのようにしていかなくちゃいけませんし、本村の受付の方も多言語に対応しなくちゃいけませんので、色々対策を練っていききたいなと思っておりますので。貴重なご意見ありがとうございます。

ではこれで締めさせていただきます、私からもしよければお願いしたいなというところで。大衡は学力が低いと言われて悔しい思いをしています。そんな中で教育には力を入れていきたいと思っております。やはり学校と教育委員会で密な連携が必要になるんじゃないかと思ってます。やはり県外も色々な学力向上している自治体もございますのでそういうところの取組を行政側と教育委員側と研修という形で見たいと思うんです。遠くに行くとも費用がかかりますし、予算が取れた時にはそれもあるかと思うんですけど近隣でも一生懸命やってる自治体がありますので、そういうところに研修という形で見に行きたいなと思ってますので、その時にはご協力よろしくお願ひいたします。

<早坂総務課長>

長時間に渡り協議の方大変ありがとうございました。大衡村の教育につきましてはこれから山ほどの課題があるのだなと感じたところでありました。この会議につきましては年 1 回ではありますけれども、教育委員の皆様におかれましては定例会等で毎月お集まりい

ただいてる中で村と教育委員会ということで連携を図って進めていければと感じたところ
でございます。

それでは本日の大衡村総合教育会議の方を終了とさせていただきます。

4. 閉会

閉会時刻：午前11時50分

以上